

初版作成日 : 2018年08月30日
改訂日 : 2021年01月18日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 :

製品名称 : 真菌用軟膏NZ

製品番号 (SDS NO) : ZQ237

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 : 動物用医薬品

供給者の会社名称、住所及び電話番号

供給者の会社名称 : 日本全薬工業株式会社

住所 : 〒963-0196福島県郡山市安積町笹川字平ノ上1番地の1

担当部署 : 信頼性保証部

電話番号 : 024-945-3126

FAX : 024-945-2394

緊急連絡先電話 : 024-945-2300(代表)

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類、GHSラベル要素

GHS分類

健康に対する有害性

皮膚腐食性/刺激性: 区分 2

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性: 区分 1

皮膚感作性: 区分 1

生殖細胞変異原性: 区分 1B

生殖毒性: 区分 1B

特定標的臓器毒性(単回ばく露): 区分 2

特定標的臓器毒性(反復ばく露): 区分 2

環境有害性

水生環境有害性 短期(急性): 区分 3

GHSラベル要素



注意喚起語: 危険

危険有害性情報

皮膚刺激

重篤な眼の損傷

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

遺伝性疾患のおそれ

生殖能又は胎児への悪影響のおそれ

臓器の障害のおそれ

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ

水生生物に有害

注意書き

安全対策

環境への放出を避けること。

粉じん/煙を吸入しないこと。

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。

保護手袋を着用すること。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

保護眼鏡/保護面を着用すること。
 指定された個人用保護具を使用すること。
 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

応急措置

気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。
 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。
 直ちに医師に連絡すること。
 皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと。
 皮膚刺激又は発疹が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

廃棄

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

特定の危険有害性

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：
 混合物

成分名	CAS No.	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	化管法 政令番号	含有量 (100g中)
フェノール	108-95-2	3-481・10-3046	1-349	3.0g
サリチル酸	69-72-7	3-1640	-	5.0g

その他、基剤、乳化剤を含む。

危険有害成分

安衛法「表示すべき有害物」該当成分
 フェノール(労働安全衛生法施行令：別表第9の474)
 安衛法「通知すべき有害物」該当成分
 フェノール(労働安全衛生法施行令：別表第9の474)
 化管法「指定化学物質」該当成分
 フェノール(1-349)，ラウリル硫酸ナトリウム(1-275)
 GHS分類区分該当有害成分
 腐食シンボル該当成分
 ラウリル硫酸ナトリウム，フェノール
 健康有害性シンボル該当成分
 ラウリル硫酸ナトリウム，フェノール，サリチル酸

4. 応急措置

応急措置の記述

一般的な措置

気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。
 直ちに医師に連絡すること。

吸入した場合

気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚(又は髪)に付着した場合

多量の水と石鹼で洗うこと。
 皮膚刺激又は発疹が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

多量に飲んだ場合、吐き出させ、異常がある場合は医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

周辺設備に適した消火剤を使用する。

特有の危険有害性

火災時に刺激性もしくは有毒なヒューム（またはガス）が発生するため、消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。

消火を行う者への勧告

特有の消火方法

速やかに容器を安全な場所に移す。

移動不可な場合は、容器及び周囲に散水して冷却する。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。

状況に応じて呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

皮膚、眼及び衣服への接触を避ける。

環境に対する注意事項

漏れ出した物質の下水、排水溝、低地への流出を防止する。

下水、排水中に流してはならない。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

掃き集めて、空容器に回収する。

二次災害の防止策

汚染箇所を水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

(取扱者のばく露防止)

粉じん/煙/ガス/ミストを吸入しないこと。

粉じん/煙を吸入しないこと。

(火災・爆発の防止)

容器を転倒させ落させ衝撃を与える等の粗暴な扱いをしない。

安全取扱注意事項

保護手袋を着用すること。

保護眼鏡/保護面を着用すること。

指定された個人用保護具を使用すること。

取扱い後は手、汚染箇所をよく洗う。

適切な保護具を着用する。

保管**安全な保管条件**

- 直射日光を避け、換気のよいなるべく涼しい場所に保管する。
- 湿気を避けて保存すること。
- 小児の手の届かないところに保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置**管理指標****管理濃度データなし****許容濃度**

(フェノール)

日本産衛学会(1978) 5ppm; 19mg/m³ (皮)

(フェノール)

ACGIH(1992) TWA: 5ppm (上気道刺激; 肺損傷; 中枢神経系障害)

(ステアリン酸)

ACGIH(2016) TWA: 10mg/m³(I); 3mg/m³(R) (下気道刺激)**特記事項**

(フェノール)

皮膚吸収

ばく露防止**設備対策**

特に密閉された区域では、十分な換気を確保する。

保護具**呼吸用保護具**

状況に応じて呼吸用保護具を着用する。

手の保護具

状況に応じて保護手袋を着用する。

眼の保護具

状況に応じて保護眼鏡を着用する。

皮膚及び身体の保護具

状況に応じて保護衣を着用する。

衛生対策

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

9. 物理的及び化学的性質**基本的な物理的及び化学的性質に関する情報**

物理状態：軟膏

色：白色～微黄色

臭い：フェノール臭

臭いの閾値データなし

融点/凝固点データなし

沸点又は初留点データなし

沸点範囲データなし

可燃性(ガス、液体及び固体)データなし

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界データなし

引火点データなし

自然発火点データなし

分解温度データなし

自己促進分解温度/SADTデータなし

pHデータなし
 動粘度データなし
 動粘性率データなし
 溶解度:
 水に対する溶解度データなし
 溶媒に対する溶解度データなし
 溶媒の溶解度データなし
 n-オクタノール/水分配係数データなし
 蒸気圧データなし
 蒸気密度データなし
 VOCデータなし
 蒸発速度データなし
 密度及び/又は相対密度データなし
 相対ガス密度(空気=1)データなし
 20°Cでの蒸気/空気-混合物の相対密度(空気=1)データなし
 臨界温度データなし
 粒子特性データなし
 その他のデータ
 その他のデータなし

10. 安定性及び反応性

化学的安定性

通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

避けるべき条件

本剤の保管は直射日光、高温及び多湿を避けること。

11. 有害性情報

毒性学的影響に関する情報

急性毒性

急性毒性(経口)

[日本公表根拠データ]

(フェノール)

rat LD50=375mg/kg (計算値)

(サリチル酸)

rat LD50=891-2000mg/kg (NTP TR524, 2007)

(ラウリル硫酸ナトリウム)

rat LD50=1200mg/kg (SIDS, 2009)

急性毒性(経皮)

[日本公表根拠データ]

(フェノール)

rat LD50=670mg/kg (EHC 161, 1994)

(ラウリル硫酸ナトリウム)

rabbit LD50=ca. 200mg/kg (SIDS, 2009)

労働基準法: 疾病化学物質

フェノール

局所効果

皮膚腐食性/刺激性

[日本公表根拠データ]

(フェノール)

ラビット/ヒト 腐食性 (EHC 161, 1994)

(サリチル酸)

ヒト 刺激性 (IUCLID, 2000)

(ラウリル硫酸ナトリウム)

ラビット 中等度から強度の刺激性 (SIDS, 2009)

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

[日本公表根拠データ]

(フェノール)

ラビット 非可逆的作用 (EHC 161, 1994)

(サリチル酸)

ラビット 強い刺激性 (IUCLID, 2000)

(白色ワセリン)

ラビット 軽度の刺激性 (IUCLID, 2000)

(ラウリル硫酸ナトリウム)

ラビット 非可逆的な影響 (SIDS, 2009)

呼吸器感受性又は皮膚感受性

皮膚感受性

[日本公表根拠データ]

(サリチル酸)

cat. 1; mouse : NTP TR 524, 2007

生殖細胞変異原性

[日本公表根拠データ]

(フェノール)

cat. 1B; CER/NITE有害性評価書 No.32, 2005

発がん性

(フェノール)

IARC-Gr.3 : ヒトに対する発がん性については分類できない

(フェノール)

ACGIH-A4(1992) : ヒト発がん性因子として分類できない

(ステアリン酸)

ACGIH-A4(2016) : ヒト発がん性因子として分類できない

(白色ワセリン)

EU-発がん性カテゴリ1B; ヒトに対しておそらく発がん性がある物質

生殖毒性

[日本公表根拠データ]

(フェノール)

cat. 1B; CER/NITE有害性評価書 No.32, 2005

(サリチル酸)

cat. 2; rat : HSDB, 2009

催奇形性データなし

特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

[区分1]

[日本公表根拠データ]

(フェノール)

呼吸器、心血管系、腎臓、神経系 (CER/NITE有害性評価書 No.32, 2005)

(サリチル酸)

中枢神経系 (HSDB, 2009; PIM 642, 1998)

(ラウリル硫酸ナトリウム)

中枢神経系 (SIDS, 2009)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

[区分1]

[日本公表根拠データ]

(フェノール)

心血管系、肝臓、消化管、血液系、腎臓、脾臓、胸腺、中枢神経系 (CER/NITE有害性評価書 No.32, 2005)

2, 2005)

(サリチル酸)
中枢神経系 (HSDB, 2009; PIM 642, 1998)

[区分2]

[日本公表根拠データ]
(ラウリル硫酸ナトリウム)
肝臓 (EHC 169, 1996)

誤えん有害性データなし

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性

水生生物に有害

水生環境有害性 短期(急性)

[日本公表根拠データ]
(フェノール)
甲殻類 (ネコゼミジンコ属の一種) LC50=7.83mg/L/48hr (4つ以上報告の幾何平均値)
(ラウリル硫酸ナトリウム)
甲殻類 (アカルチア) EC50/LC50=0.12mg/L/96hr (SIDS, 2009)
(サリチル酸)

藻類 (Pseudokirchneriella subcapitata) EC50=65mg/L/96hr (環境省生態影響試験, 2000)

水生環境有害性 長期(慢性)

[日本公表根拠データ]
(フェノール)
魚類 (ファットヘッドミノー) NOEC=0.75mg/L/30days (NITE初期リスク評価書, 2007)
(ラウリル硫酸ナトリウム)
甲殻類 (ネコゼミジンコ) NOEC (繁殖)=0.88mg/L/7days (SIDS, 2009)

水溶解度

(フェノール)
溶ける (ICSC, 2001)
(ラウリル硫酸ナトリウム)
溶ける (15 g/100 ml, 20°C (ICSC, 1997))
(マクロゴール4000)
非常によく溶ける (ICSC, 2004)
(マクロゴール400)
非常によく溶ける (ICSC, 2004)
(ステアリン酸)
溶けない (ICSC, 1997)
(サリチル酸)
0.2 g/100 ml (20°C) (ICSC, 1997)
(白色ワセリン)
溶けない (ICSC, 2002)

残留性・分解性

(フェノール)
急速分解性あり (2週間でのBODによる分解度: 85%; TOCによる分解度: 95% (既存点検, 1979))
(ラウリル硫酸ナトリウム)
急速分解性あり (BOD分解度=85.0%/14 days; TOC分解度=99.3%/14 days (J-CHECK 2016))
(サリチル酸)
BODによる分解度: 88.1% (既存点検, 1976)

生体蓄積性

(フェノール)

log Pow=1.46 (ICSC, 2001)

(ラウリル硫酸ナトリウム)

log Kow = 1.6 (PHYSPROP DB, 2008)

(サリチル酸)

log Kow=2.26 (PHYSPROP DB, 2012)

(白色ワセリン)

log Pow=6 (ICSC, 2002)

土壌中の移動性

土壌中の移動性データなし

他の有害影響

オゾン層への有害性データなし

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報
廃棄物の処理方法

環境への放出を避けること。

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類に該当しない

環境有害性

MARPOL条約附属書III - 個品有害物質による汚染防止

海洋汚染物質 (該当/非該当): 非該当

特別の安全対策

運搬に際しては容器に漏れないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実にこなう。

バルク輸送におけるMARPOL条約附属書II 改訂有害液体物質及びIBCコード

有害液体物質(Y類)

フェノール; ステアリン酸

有害液体物質(Z類)

マクロゴール400; マクロゴール4000

国内規制がある場合の規制情報

船舶安全法に該当しない。

航空法に該当しない。

15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令
毒物及び劇物取締法に該当しない。

労働安全衛生法

有機溶剤等に該当しない製品

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

名称表示危険/有害物

フェノール(医薬品のため、適用除外)

名称通知危険/有害物

フェノール(医薬品のため、適用除外)

化学物質管理促進(PRTR)法

第1種指定化学物質

ドデシル硫酸ナトリウム(2.0%);

フェノール(3.0%)

消防法に該当しない。

化審法

優先評価化学物質

フェノール; ラウリル硫酸ナトリウム

大気汚染防止法

有害大気汚染物質

フェノール

特定物質 政令第10条第1号から第28号

フェノール

水質汚濁防止法

指定物質

フェノール

法令番号 55

適用法規情報

医薬品医療機器等法:動物用医薬品

16. その他の情報

参考文献

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, (7th revised edition, 2017), UN

Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 20th edit., 2017 UN Classification, labelling and packaging of substances and mixtures (Table 3 ECNO6182012)

2016 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)

2020 TLVs and BEIs. (ACGIH)

<http://monographs.iarc.fr/ENG/Classification/index.php>

JIS Z 7252 : 2019

JIS Z 7253 : 2019

2019 許容濃度等の勧告 (日本産業衛生学会)

Supplier's data/information

責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。

ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データ (NITE 令和元年度(2019年度))です。